

高校生と創
る演劇



2019
11.2.3.4
Toyohashi Arts Theatre
PLAT

報告書



2019
11.2.3.4
Toyohashi Arts Theatre
PLAT

「自立」というのは、自分の演技に、自分で責任を持つこと

演出 山本タカ



この作品を演出するにあたり、最も心がけていたことは、「邪(よこしま)な作風を持たない」ということでした。

「転校生」は、25年前に初演され、その際に非常に大きな評判を呼んだ作品です。「三段組台本」「同時多発の会話」「現代口語演劇」など、通常の戯曲とは違う様々な特色が備わっているながらも、「見」とても平凡な日常が描かれた戯曲です。演出家としても、つい何かしらの「自分らしさ」を出したくなる戯曲です。

あの純朴さ 底知れない集中力

演出助手

菊池佳南



演出部3人は、お互い特に確認し合った訳ではないのだが、今回参加した高校生達に対して、「高校生だから」とは、ほとんど考えていなかったと思う。今思えば、「転校生」という作品を作るために、プロの俳優に期待するのと同じか、あるいは本物の高校生であるが故に、それ以上を求めて毎日の稽古に臨んでいた。オーディションで初めて出会った時から変わらない彼らの印象は、とにかく真面目で飲み込みが早いということだ。なんでもよく聞き、真面目にこなそうとする。出演者も多く、また舞台上での段取りもとても多い「転校生」の戯曲を、あくまで写実性や生々しさにこだわった山本タカさんの演出では、小道具の準備をはじめとした細やかなスタッフワークも多く、出演者のみならず高校生スタッフ達も含め彼らの吸収力と自分のものにするスピードには、ときどき圧倒されてしまった。

そんな真面目な彼らだからこそ、この緻密で厳格な構造を持つ「転校生」をどこまで彼ららしく生き生きと演じられるか、はじめは少し不安にも思っていた。

舞台上で生き生きしていることは、ただ野放図であることは違う。それを打開するため高校生それぞれが俳優、スタッフという、「クリエーター」としての自覚と責任を持つことを、高校生達に求め続けていたように思う。また私自身は、彼らにそれを要求できる位この作品と目の前の彼らのことを考え続けなければならぬと、真剣に悩んで泣いたり笑った

ものです。また、今回の企画では、「高校生が、そのままを舞台上に上がっているような作品にすべきだ」という思いも僕の中にありました。とにかく「邪(よこしま)な作風を持たない」。これが僕自身の課題であり、自戒でした。

この自戒が成果に結びついたことは、上演後に実感できました。「誠実であった」と「戯曲がビビット(鮮明)に伝わっていた」という観客からの反応が、裏付けとして挙げられます。

夏のワークショップ期間、僕は高校生たちに「日本」の転校生を創る!という言葉を豪語しました。これは、僕も何か具体的な方策があったわけではなく、単なる心意気から出た発言です。演劇は突き詰めた表現を上演する媒体です。「やるんだつたら、徹底的に」と言うのは、僕自身のモットーでもありましたから、それをまず高校生と共有するために「日本」というわかりやすい目標を掲げました。これによって高校生たちも「腹を決めてやらない」という気持ちにはなってもらえたように思います。

時にこの言葉が、大きなプレッシャーになって高校生たちに襲い掛かった時もありました。ですが、高校生の精神というのは、非常に弾性の高いボールの様なもので、凹んではかりもいないのは頼もしかったです。プレッシャーをかければ、その分、反作用として跳ね返そうとしてくる。しかし、大きな目標は、貫き通し

た時の成果は高いものの、リスクも伴います。時に「厳しくしすぎかな」と僕自身、心配してしまふ瞬間もありましたが、脱落者も出ることなく本番を迎えられました。稽古を乗り越え、本番を成功させたという達成感、観客からの拍手を一身に受けた彼らの、財産になることと思います。

また、語弊を恐れずに言えば、僕は、今回の創作において「高校生の成長のため」という意識をなるべく持ち込まないようにしました。出演者21人、スタッフ含め30人超の座組みに「高校生」のためにいる「大人」という構図ではどうしても稽古が立ち行かなくなってしまうのです。時間や、こちらの体力的な問題もありますが、「一番は、あまり過度な関わり方をすると、大人に対する依存が起ころうしてしまいます。それは、参加者である高校生のためにもならず、関係として健全とは言えないです。何より、そういった関係は、創作現場での雑念につながります。あくまで、「俳優」と「演出家」として向き合うよう努めました。

これも、ある一定の意義はあったように思います。本番の舞台に立つ上では、個々人の「自立」が最も重要です。この「自立」というのは、自分の演技に、自分で責任を持つことを指します。ある一定の距離感を保ち、作品第一で創作を進めたことで、個人の「自立」が促され、結果として「高校生の成長」に繋がったのではないかと考えます。

高校生であること、 大人であることは何一つ関係ない

演出助手

北澤美未子



5月のオーディションから、8月のプレ稽古を経て、9月からの本稽古、11月の本番。総勢31名の高校生のみなさんとこれだけ長い時を一緒に過ごすことができたことを、本当に幸せに思います。(オーディションの後、この企画への参加が叶わなかった方もいましたが、観劇に来ていたと風の噂で聞けたことも、とても嬉しいことでした。)

今回の創作では、最初に1つ、全員で目標を持ちました。そして「一人一人が自立し、思考し続けた先に良いものができるはずだ」ということを演出の山本タカさんが根気強く伝えていくと、彼らは、自分で考え、どうしているのか、ということを考えて始めました。そこには、全体へ声をかける人や、隣の人をフォ

た。もちろん、強制されたものではなく、彼らの自主的な発案で、ひとりひとりのメッセージが書いてありました。そこには、「努力し続けること」、「考え続けること」、「日々成長しよう」と意識すること」の大切さがわかったと書いてありました。僕は、「今回の企画、彼らにこれを伝えよう」ということはあまり意識しないようにしていましたが、しかし、寄せ書きに散見されるこれらの言葉は、僕が稽古場で口癖の様に言っていたもので、それは確かに、彼らに伝わったのだらうと思います。

最近よく、「自己肯定感」という言葉も聞きますが、それは単に「行った」ということのみで得られるのではなく、「成し遂げた」という明確な実感から、生み出されるものだと思います。稽古は厳しい瞬間の連続でしたが、その分、成し遂げる喜びを感じてもらえたのではないかと思います。

彼らがこの企画へ参加したことで、成長し、次世代を牽引する人物になっていくことを、願って止みません。



そして今回、平田オリザさんの「転校生」を、現役の高校生と一緒に創作ができる、ということもななく賛沢で大きな課題を与えていただき、そして、こんなにも無限の可能性をくださった、穂の国とははし芸術劇場さまに、深く感謝申し上げます。この企画が日本の演劇界の大きな礎となっていくだろうと強く感じています。

転校生

出演者紹介

- 1 他ご紹介(紹介した人)
- 2 「変身」するなら何になってみたい?
- 3 世界の高校生に一言!

長谷川七虹

◆野本小百合



1 なこちゃんとはとっても美人さん! 真面目に見えて少しお茶目。発想力豊かで皆を驚かせる、自然体な演技をご覧下さい!(琴屋) 田舎に住む女の子。畦道を通って帰ったりしたい。 2 高校生である以前に自分自身である私達の感情や見えている景色を、私達自身が一番大切に出来たらいいね。

松井茜里

◆山田恵理



1 不思議な雰囲気を持っていて、その魅力に引き込まれる人多数! かわいい見た目と裏腹になんと与作を歌うシーンも? 恵理の活躍に乞うご期待!(稲子) 2 ナマコ。何も考えたくないから。 3 痛かったり悲しかったりする人が今より少しも少ない世の中になるといいよね。

氏原小百合

◆町田ミナ



1 何を考えているのか分からない唯一無二の存在感を持つうちちゃん。落ち着いた声と、はっきりとした笑顔が魅力の魚と、会話できそう。(藤田) 2 美少女まははイケメンになってみたい! 人生楽しそうだから! 3 色んな高校生に会いたい! 会って色々な話をしたい。楽しいことも嬉しいことも。

石渡愛乃

◆上田順子



1 真面目! すごく真面目! テストでは常に上位で、演劇に対しても常に前めりて学級委員長的な感じ。でもふとした時に凄くお茶目!(上井戸) 2 運動能力の高い猫。俊敏さが欲しいのと、最近、自分は猫っぽい性格だと気づいたから。自由気ままなタフな感じの生活もいーなあと思ひまして! 3 変身!

鈴木伸乃香

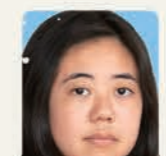
◆大西由美



1 いつも持ち前の笑顔と明るさで稽古場の雰囲気や和ませてくれる一人です! 真剣な表情でタカさんの話を聞いている姿とのギャップはとっても最高です(笑)(松本) 2 猫になって日向ぼっこしたい。 3 皆さんか? 面白いことはありますか? 面白いことがあれば、教えて下さい!!

富永愛加莉

◆田島めぐみ



1 すごく真面目そう! でも話してみると面白い! 演技している時の笑ってる顔も、真面目になにか考えている時の顔も好きです!(佐藤) 2 馬になってみたいです。理由は走る姿がかっこいいから! 馬になって、草原とかを疾走してみたいです。もし、どこかで会ったら仲良くして下さい!!

原田有萌

◆堀田早苗



1 明るく、元気がよくてしっかりとしゃべります。演じている時の役になりきろうとする一生懸命さが素晴らしいと思います。(山路) 2 鳥になって、何も考えずに空を自由に飛んで国境を越えてみたい! 3 高校生って楽しいけど意外と大変!! お互い今を楽しもう!! 「転校生」も世界中の高校生に見て欲しいなー!!

上井戸美月

◆秋山美和子



1 みいさんはとても元気で面白い! 皆の中でも頭ひとつ抜き出てるレベルで体が柔らかい。前世は軟体動物では?(白柳) 2 全然思い浮かばない。今は楽しくて! 強いアザラシの茶々丸かな。いつも底に沈んでるイメージ! 3 LOVE & Peace! いえい!

平田舞那

◆澤田美幸



1 とにかく笑う、喋る! 稽古場のムードメーカー! しぎが居ないと「なんか静かだね」なんて会話が交わされることも。小さな体に魅力がたくさん詰まっています。(田邊) 2 ON THE PHONEのルフィ!! 海賊王に、俺はなる!! 3 高校生、楽しもうぜ!!

青木友香

◆西岡ひとみ



1 明るく爽やかなスポーツ少女。しゃべり方がふにやつとしていてかわい。背が高く、劇中で颯爽と去っていく姿が印象的。肩甲骨が柔らかいらしい(未確認)。(松井) 2 かつこいいヒョウに変身して、素早い足で草原を走ってみたい! 3 将来、お互い夢を叶えて皆さんと出会えたら嬉しいです!

孫紬椰

◆中島智恵



1 可愛いハイトーンボイスで皆の癒し。だけど特撮の話が始まるとマシンガントークが止まらない! 智恵のツッコミにも注目! (青木) 2 小さい頃から憧れていたヒーローに変身して、皆の笑顔を守ります! 3 ハロー! まだ顔も名前も知らない皆! 早く大人になって友達になるから待つてね!

稲子朋花

◆根本久美



1 身体表現力が高く、芸術性の高いボイスをしていて、時折見る真剣な顔がカッコいいです。(清田) 2 世界一脳が小さい微生物カエノラフティニスエレガンス。 3 「高校生」でも生き方は千差万別だと思ひます。それでもこの「高校生」という特別な時間を楽しんで欲しいです。

加我羽菜

◆小島芳子



1 稽古場のツッコミ担当。面白いけど心は繊細。さばさばした三河井が特徴で、座り方が汚い(笑)(勝崎) ジャニーズになりたい! 応援してくれる人がいることがどんな感じか想像もつかないし、自分の行動で人を幸せにしてみたい! 2 いつか世界中の皆に会えるように勉強します!

白柳礼司

◆鈴木雅樹



1 面白いTシャツを着ているエナジードリンクが大好きな陸上ボーイ。皆にイジラれ続けていますがメンタルだけは人一倍!(孫) 2 走高跳の戸邊直人選手! 自分も30cmの跳んでみたいから。 3 世界に高校生って何人いるのか全然予想がつかないけど全員と友達になってみたいです! 連絡待ってます!

清田晃希

◆向井京介



1 常に穏やかで、声のトーンがフアンシーで、京介が本当にぴったり。しかし、時にはキレのあるツッコミをポツと吐くよ!(平田) 2 なるべく天敵のいない鳥になって優雅に空を飛びたいです。 3 文化や考え方が様々な誰一人として同じ人がいないこの世界で、今を大切に生きましよう!

田邊麻尋

◆飯田尚美



1 まひろは元気で明るくて可愛い女の子です! いつもいっぱい笑わせてくれて元気を買っています! 真面目な面もあったりしっかりして、素敵な人です!(牧沢) 2 オードリー! ハッピーパイン! 将来どんな大人になりたいですか?

黒田花日

◆吉井晴子



1 くーちゃんは不思議ちゃん!! 目が合うと笑顔で話すとととと近づいて来るのがかわい! 休憩中にチースに生ハム巻き付けて食べてた!(津村) 2 かえる! 水陸両用も過ごせる気分と解割される気分を味わってみたい!(笑) 私達の生きる未来に幸多からんことを!

津村琴美

◆寺岡理恵子



1 つむはまっすぐで優しい人。女子に「かわいい♡」と言っている姿がかわいい! 本人曰く、メンタルはゴキブリのように強い! だとか!? (石渡) 2 小さい頃から決まってる! 仮面ライダーです!! 2 1年生の時からちゃんとは勉強しておけば良かったと私は後悔している。

糸日菜美

◆森田真紀



1 ひなこは周りがよく見えて、皆にそっと寄り添って優しく気遣ってくれる人です。笑顔がチャームポイントで癒されます(鈴木) 2 猫! コロコロと日向ぼっこして過ごしたい。 3 この作品を通して世界の高校生が悩んでいることが少し分かったような気がしました。色々な事情があつて大変だと思ひますが頑張りますよ!

藤田理子

◆瀬川みどり



1 りかには表情が可愛いです。真面目な顔をする目付きがキラリと目立ってカッコイイ感じになります。劇中で沢山その顔が見られると思ひます! (赤石) 2 クラゲ。クラゲに変身してすぐくもんチックだから。あの神秘的な体で海をゆらゆらしてみたい。 3 私は日本の高校1年生です。あなたたちの幸せを願っています!

赤石さくら

◆木下秀子



1 親しみやすく可愛らしく、一緒にいると癒されます。でも、自分の意見を持っていてブレないところが魅力的な人。(吉田) 2 雲になって夕焼けに染まると、冷たい風に吹かれたら気持ちいいだろうなあ。 3 文化も違うし、テロ、紛争、内戦など、どうしようもできない大きな悩みが沢山あると思うけど、えっと、要するに、頑張れ!!!

2月11日[日]	募集告知開始	
4月19日[金]	オーディション申込締切	
5月18日[土] 19日[日]	第1次オーディション 第2次オーディション	
26日[日]		
8月13日[火]	平田オリザワークショップ プレワークショップ	
14日[水]~16日[金]		
8月21日[水]	自主練習開始	
30日[金]	チラシ・ポスター完成	
31日[土]	チケット会員先行発売開始	
9月4日[水]	スタッフ打ち合わせ@東京	
9日[月]	スタッフ打ち合わせ@東京	
14日[土]	チケット一般発売開始、発声レッスン 高校生スタッフ向け制作WS スタッフ打ち合わせ@東京	
9月24日[火]~29日[日]	1週目	
9月30日[月]~10月6日[日]	2週目	
7日[月]~13日[日]	3週目	
14日[月]~20日[日]	4週目	
21日[月]~27日[日]	5週目	
28日[月]~11月1日[金]	6週目	
11月2日[土]	◆13時・入場者114名 / 18時・入場者121名 ◆13時・入場者157名 / 17時・入場者182名 ◆13時・入場者226名 ●総入場者数800名	
3日[日]		
4日[祝]		
2020年 3月4日[水]	本番映像上映会	

【稽古】第1週目
9月24日(火) - 9月29日(日)

今年で6年目となる「高校生と創る演劇」は、過去最多の参加希望者数で遠方からの応募もあり、回を重ねることに波及していることが伺える。継続して参加している高校生が牽引し、8月5日9月前半の自主稽古で高まった意欲をもって稽古に臨んだ。仮の配役で台本を読み始め、随時チェンジしながらフィットする役を調整したり、25年前の戯曲のため現在とのギャップの擦り合わせを演出部と高校生で丁寧に行った。劇中に登場する新聞記事は、世界の高校生というテーマで高校生が集めてきた記事の中から選ばれた。稽古5日目に配役が発表され、椅子を並べた状態での立ち稽古が開始される。出演者が21人と多いため、スタッフは遅刻や欠席の代役に入り稽古の進行を支えた。また、交代で稽古記録を付け、進行状況を全員に共有し進められた。

【稽古】第2週目
9月30日(月) - 10月6日(日)

立ち稽古を中心に行いながら「転校生」という戯曲を身体に染み込ませていく。女子高生のみが登場する戯曲に男子2人が入ることもあり、読み合わせをしながら細かく台本を修正していった。セリフに出てくる小説は課題図書として各々読み、発する言葉が表面的にならないよう掘り下げることを怠らずに稽古を重ねていく。スタッフは教室の床となるベニヤ板の塗り作業を行った。使い古された床の味が出るように、素の状態を濃い色で汚していく。1枚が大きく乾燥時間も要するため、稽古のアップ時に毎日少しずつ進め、稽古中盤からは代役に入るというタイトなスケジュールを日々こなす。積み上げられていく。

【稽古】第3週目
10月7日(月) - 10月13日(日)

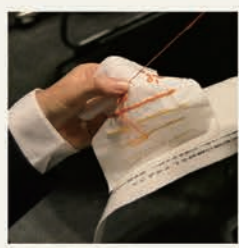
劇中ではセリフでしか描かれていない家庭科の課題をやってみた。演じない部分を体験してみることによって具体的なイメージが湧き、前後のセリフの深度が深まっていく。針と糸で指示通り紙に縫い付けていくものだったが、それぞれに個性が出て本場の学級のように感じられた。細やかなニュアンス付けをしながら、1場ずつ丁寧に創り上げていったのがこの時期。テスト週間に入り、休憩時間や自分が出ない場面は稽古場の隅でテスト勉強をしながら、わずかな時間も無駄にせず、学業との両立を目指す稽古に励んだ。

【稽古】第4週目
10月14日(月) - 10月20日(日)

14日に初めて通し稽古を行ったが、21人で繰り返される同時多発会話にセリフが抜けてしまったりキャストも多く、この日を機に今までに増して緊張感を持って稽古に取り組みようになつた。スタッフはプロンプトに入り、キャストをサポートした。音響の柴田さんによって劇中の環境音が入り、芝居はより具体性を増していく。スタッフは劇場の外に出てポスター掲示やチラシ配架のお願いに行ったり、小道具の教科書作りや広報映像の作成など、稽古中盤になるにつれスタッフの仕事は多岐に渡っていった。20日には衣裳パレードが行われ、学校も学年もバラバラの21人が同じ制服を着て、連帯感が高まる日となった。衣裳の富永さんと衣裳志望の高校生スタッフにより制服のサイズ調整をし、この日から衣裳の洗濯や管理も毎日の仕事の一つとなる。

【稽古】第5週目
10月21日(月) - 10月27日(日)

22日に舞台美術の仕込みが行われ、高校生スタッフはその様子を見学した。教室の床の貼り作業を手伝い、自分たちの手で塗ったパーツが舞台の一部になる光景に感激。また、会場のホワイエ装飾作業にも着手しはじめ、学校というテーマで各々アイデアを出し合いながら少しずつ形にしていっていった。さて、稽古場は舞台セットが組まれたアートスペースへ移動する。舞台監督の小見山さん、照明の山本さんと川添さんも入り、本番に近い形で稽古は追い込



転校生
TEN
KOU
SEI



「今、ここに」に
彼らがいる
ということ。

高校生と
劇団
転校生



Staff work

スタッフワーク

今回は10名のスタッフがこの舞台を支えました。稽古のサポートや広報活動しながら、プロの技術スタッフに教わって作業をしたり、お仕事を間近で見学させてもらったりと、舞台芸術の現場の表も裏も知ることができたのではないのでしょうか。スタッフワークは多岐に渡り、それぞれ得意なことを活かして役割分担をしながら取り組みました。

転校生

高校生
スタッフ紹介

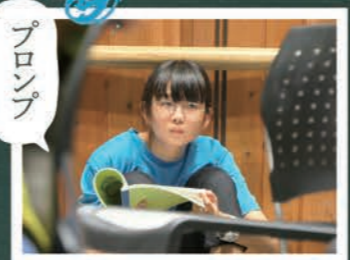
◆他已紹介(紹介した人)

稽古記録



稽古でやったことをノートに記録し、欠席者にも進行状況がわかるよう写真に撮って共有。細かい台本修正の指示も逃さないよう集中して稽古に付いた。

プロンプ



キャストがセリフを忘れたときに教えてあげるプロンプター。同時多発会話による1ページ三段組の難易度の高い台本だが、セリフを見失わないようにしつつ全体も把握しなければできない重要な仕事。



舞台美術

舞台美術の福田さんに教わりながら、教室の床面の塗装を行った。濃い茶色を二重に塗り、ペニヤ板が使い古された床に見えるよう汚した。



衣裳メイク

衣裳の洗濯・アイロンがけや、制服に合わせるアイテムの管理をした。メイクが得意なスタッフは公演前のメイクを手伝った。



小道具

劇中シーンのお弁当の準備・片付けや、教科書作りを行った。公演時はキャストが手に取りやすいように舞台裏でサポートした。



SNS

Twitter・Instagramの稽古の様子を毎日発信。Instagramは高校生の提案で今回から始動した。ストーリーを利用してキャストの一言コメントをアップしたり、プラットフォームでのアクセスを写真付きで投稿したりと工夫して取り組んだ。



Twitter: @PLAT_koukousei



Instagram: @plat_koukousei



会場スタッフ

公演当日にパンフレットを渡したり、荷物やプレゼントを預かる仕事をしながらお客様をお出迎えした。今回は演出上客席側の扉を使用したため、スタッフはキャストが通るときに扉の介錯をした。舞台の進行の補助をした。



ホワイエ装飾

学校というテーマでホワイエの装飾を施し、「転校生」の世界観を演出。キャストが書いた習字の掲示やフォトブースの設置など、お客様に楽しんでもらえるよう公演当日まで作業は続いた。



広報映像作成

プラット館内やSNSで流す広報動画の企画・撮影・編集を行った。稽古風景を撮影したプロモーション映像、演出の山本タカさんのインタビュー、スタッフの仕事収録したものなど、「転校生」に興味を持ってもらえるよう高校生がアイデアを出し映像を作成した。



代役

キャストが21人と多いこともあり、途中参加や欠席者の代役にスタッフは欠かせない存在となった。



ポスター掲示・チラシ配架

飲食店や学習塾など、高校生が訪れそうなスポットに出向き、ポスター掲示やチラシの配架依頼を行った。



磯部空知

◆そらちはいい人!! 気さくで誰とでも仲よくなくて、目があうと微笑んでくれて話しかけやすい素敵な人です。(キャストの男子2人は目があうと逃げるので)(黒田)



琴屋晴香

◆この子は姉御肌のクールビューティ系女子!! 背が高くてイケメンで可愛いってみんなからも評判です! あだ名も特徴的だからすぐ覚えられました!(磯部)



立岩唯奈

◆ゆいちゃんはずっかり者でお茶目! 学校も部活も一緒に、高校生活も充実した演劇に一緒に参加できてすごく心強かったです。あだ名はいつの間にか、私から皆に広まってきました!(富永)



松本龍門

◆まつもんは緑の下の力持ちで皆への配慮が素晴らしい。いつも仕事が早く、気が付いた時にはもう出来上がってる! 映像も作ってくれたし、他にも色々な知識がありそう!(桑)



勝崎いずみ

◆演劇が本当に好きで、「転校生」のスタッフとして遠いところから豊橋まで来て一生懸命に仕事をしています。まるでお姉さんのような頼れる存在です。(立岩)



佐藤葵

◆落ち着いていてクールで仕事ができるスタッフさんです! メガネが似合っていて、パーカーの上着が似合っていて素敵。話してみると実はとてもかわいい子です。(氏原)



牧沢葵

◆しっかりしていて、可愛さと細やかさが共存しているのが大好きです。いつも新しい視点で作品がより良くなる様に支えてくれて、本当にありがとう。(長谷川)



山田梨央

◆凄く優しく面白くてユークで周りをよく見ている高校生スタッフAちゃん!! スタッフのお仕事をしっかりこなしている姿は本当にカッコいいです!! (原田)



山路こと美

◆やまちゃん不思議な雰囲気を持っています! ミステリアスだけど、色んなことに反応して笑ってくれます! オーディションの時に沢山笑ってくれてありがとう!(加我)



吉田朋永

◆ともえはとても優しく、沢山声をかけてくれます。また、仕事に対する意欲も高く、新しい仕事にも楽しそうに積極的に活動している姿が印象的です。(山田)

1 5月のオーディションワークショップについて

集計結果 1

ワークショップオーディション						
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	11	7	2	0	0
	長さ・回数	2	4	1	0	0
スタッフ	日時					
	長さ・回数					

※スタッフ=無記入3名(不参加4名)

●私はこのオーディションで初めて演技をしたのですが、初対面の子ともしラックスして話せる環境だったのととても楽しく参加できました。ワークショップ形式なので話がしやすく、コミュニケーションが取りやすかったです。皆笑ってた気がしました。知り合いがいなくて学年関係なく気軽に話せて良かったのではないかと思います。

●自分が知らない練習方法やセリフの読み方など学べるが多かったです。ただ演じるだけが演劇じゃないんだと実感しました。ここで行ったアップの方法や練習などを自校の演劇部で紹介することもできました。

●とても緊張しましたが、後悔しないように取り組み思いでワークショップオーディションに臨みました。初めて会う人たちとお話することができ、オーディション自体を楽しむこともでき、貴重な経験になりました。何かに取り組むとき、緊張することも楽しむことも忘れないなと思いました。

2 プレワークワークショップについて

●これから一緒に作品を創り上げる皆さんとお会いすることが出来て、嬉しく身の引き締まる思いでした。ワークショップを通して、平田オリザさんや山本タカさんに教わった二つのことが、すべてお芝居に繋がっている実感し、これらのことをどう捉えて活かしていくことが良いのかを考えるきっかけとなりました。一人一人、考え方や感覚が違って、そんな中で一緒に取り組めることがとても嬉しかったです。

●台本を読むのが中心だと思っていたのですが、いろんなシアターゲームができてとても楽しく、発声の仕方や姿勢のことも細かく学

2 プレワークワークショップ

プレワークショップ						
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	13	7	0	0	0
	長さ・回数	3	3	2	0	0
スタッフ	日時					
	長さ・回数					

※スタッフ=日時:無記入2名(不参加1名) / 長さ回数:無記入2名(不参加1名) / 内容:無記入1名(不参加1名)

れ違う中で創り上げていく演劇って本当に楽しいなと思えました。稽古を通してできた友情、絆、信頼関係は一生の宝物です。忘れられない思い出です。本気で演劇したい人たちが集まり、一緒に作品が作れている喜びを感じながら日々稽古していました。

5-1 公演を終えて



●3年生でありこの企画は2回目、という立場でまた新たに覚えてくるものを感じました。確かに大変だけれどそれ以上の達成感が、今年も味わえました。初めは受験生のためスタッフとして関わりたいと参加しましたが、その後キャストに代わることになりました。元々入っていた子の分までやりきれぬのかと抱いていた不安も、みんなが支えてくれたお陰で最後まで変身しつづけることができました。昨年も今年も、自分の中の大きな壁をまたひとつ乗り越えた気がしています。大袈裟だけど、今ならどんな存在も愛せる、そんな感覚です。これから先、何があっても

3 9月の自主練習について

●自主練習に最初は不安もありましたが、一人一人がとても一生懸命で、どうすればよりよくなっていくのか話し合いながら工夫し、挑戦していく毎日に、こんなにも素敵な人たちと一緒に出来るのが嬉しく、良い作品にしていきたいと強く思いました。みんなの存在の大きさや、自分がどうしていくことがみんなを手助けできることなのだろうと考える日々でした。

●自分たちが主体となって考えながら練習できることや回を重ねるうちに仲を深められることが良かったです！本稽古で演出チームにいい状態でバトンを渡せて嬉しかったです。ただ、参加できる回数、急なお休みであまり話せ



集計結果 3

自主練習						
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	12	7	0	0	1
	長さ・回数	3	5	2	0	0
スタッフ	日時					
	長さ・回数					

なかつたり、実際、与えられた課題の出来にバラつきが出てしまったのが反省です。

●発声の指導が特に印象に残っています。歌を歌ったり、おもしろい声を出したり、すごく楽しかったし、技術的な面でも成長できた気がします。一人一人に目を向けてくださるのがうれしかったです。昨年とはまた違うおもしろさがありました。

4 稽古について

●毎日の稽古はいつも変化があつて勉強の日々でした。問題に直面したとき、タカさん、菊池さん、北澤さんから頂いたアドバイスやみんなが伝えてくれたこと、自分自身の思うことを反芻することがとても多かったです。時々分からない中でも何かを掴めたような気がする、悩んで考えて良かったなと思えました。みんなが諦めずに挑戦する姿を見て、活力と想像力に満ちた場所です。自分も稽古を

この秋の感動やわくわくを思い出して前に進み続けたいです。

●かけ足の半年間でしたが、昨年と同じくとても短く感じて、名残惜しさを感じました。昨年と同じ企画でも人が変われば環境は180度変わって、今年も新鮮な気持ちで取り組むことができました。しかし2年目ということで、1年目にたがむしやらにやってきたことが少しずつ通用しなくなり変化を求められていることにハードルを感じずこく悩みました。思考を止めるか飲まれる気がしてならず、常に考えながら演劇に取り組めたいと思います。稽古期間を通して見つけた自分の課題とこれから先も、向き合い、進化し続けていきたいです。

●毎日が本当に充実していました。時々つらいこともあったけれど転校生メンバーのおかげでたくさんのお話を聞き、乗り越えられました！公演がはじまってからも回を重ねることにお客さんの前で演じる楽しさだったり、ありがたさを知ることができて貴重な経験でした。無事に千秋楽を迎えられうれしい気持ちもありました。同時にさみしさもありカーテンコールが終わった後は涙が止まりませんでした。それくらい熱心に夢中に本気で転校生と

取り組みたい！
...と思っていま
した。学年、学校、
そして地域を越
えた友達をつくる
ことができ、また、夢を
創ることを仕事にしてい
る大人たちに出会うことができました。高校生でも演劇の道を目指す子がいて、夢に向かつてがんばる人たちの姿がこんなにもキラキラ

5-2

この企画に参加することで当初どんなことを望み、何をしたいと思ったか？またそれらは実現されたか？

●昨年の高校生と創る演劇に参加したことが自分の中でとても大きなものとなっていました。今年3年生ということもあり何回も悩みましたが、もし今年参加しなかったら絶対後悔すると思いましたが、芝居をもっと勉強したい、知りたいという思いや観た人が思

4

稽古						
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	14	4	2	0	0
	長さ・回数	6	4	0	0	0
スタッフ	日時					
	長さ・回数					

い返したり、考えることや歩みのきつかけとなるように、作品に携わりたいという思いがありました。公演を終えた後、沢山の方々から頂いたお言葉で何か少しでもお届けできたかもしれないと思えました。稽古中に頂いたアドバイスに向き合っていく中で課題や新しい発

見が本当に勉強になりました。
年上だつたり違う学校の子とたくさんお話しすること、心から楽しむこと、どちらも実現されました。学校の友達からは聞けない話を聞くことが出来ました。

●演劇に関わりたい、学びたい、何かに全力で



